

第4回八幡市行財政改革検討懇談会議事録＜要点＞

○日時：令和8年7月27日（月） 10時00分～12時00分

○場所：八幡市役所本庁舎 5階 会議室5－1

○傍聴者：なし

1. 開会

2. 出席者

◆橋本行史会長

◆大沼正成委員

◆壬生裕子委員

◆森田広大委員

3. 協議・報告事項

1. 第1章の構成等について

<委員>

第1章（2）財政状況については、令和4年度の内容も記載されている。計画期間は令和5年度から7年度までだが、こういった位置づけで掲載しているか。

<事務局>

計画初年度である5年度を振り返るにあたって、コロナ禍からの経過にも触れる必要があるため、4年度の財政状況についても記載している。

<委員>

新型コロナウイルス感染症の拡大と「新しい生活様式」の内容については、コロナにより市民の行動形態にどういった変化があったのか、まだはっきりしない部分もあると思うが、そうした変化や行政の対応の結果についても記載できれば良かったが。

令和4年度歳出約53億円という庁舎整備事業の完了を受けて、令和5年度からの新たな3年間の行財政改革の実施計画となった。

<委員>

歳出全体の効果額については設定額を達成しているが、達成件数としては設定件数を下回っているとあるが、今後の対応について触れるべきではないか。

1. 持続可能な行政経営体制の確立（持続可能な財政基盤の確立）

<委員>

人口減少が進む中では、個人より企業への働きかけに力を入れた方が良いと考えるが、どういった取組を進めているか。

<事務局>

ものづくりや先端技術など、雇用が生まれるような企業を誘致できるよう京都府と調整して進めている。一方で、企業立地を進めるうえで農用地区域から除外する際に必要となる代替農地を確保できる余白が市内にないことが課題となっている。

<委員>

先に意見があった、効果額の達成件数が設定件数を下回っている件もそうだが、LINE 友達登録者数についても、数値目標に対して数値結果は3年間未達成となっている。未達成となった理由と今後の対応について、担当課と調整し検討を進めていただきたい。

<委員>

達成できなかったことより、その理由と今後の対応が大切。目標設定は高めでも良い。

<委員>

懇談会の意見として、達成できなかった項目について、振り返りと今後の方針、対策を行うように求めることとしたい。企業誘致の推進についても明示しておきたい。

2. 持続可能な行政経営体制の確立（市有財産のマネジメント及び有効活用）

<委員>

空き施設の有効活用については、どういった施設で検討が進んでいるか。

<事務局>

廃校・廃園など。公共施設全体の再編計画を今年度中に示す方向で検討を進めている。

<委員>

商工会の青年部でイベントを実施した際、会場探しに苦勞した。駅前でのイベントも実施したが、利用者が少ないため、市の中心部でイベントをするとすると、廃校等が利用できるとありがたい。広く活用の検討を進めてほしい。

3. 持続可能な行政経営体制の確立（機動的な執行体制の確立）

<委員>

市民協働の仕組みづくりについては、職員の取組内容は項目として挙がっているが、地域課題の解決につながる市民協働の仕組みそのものの開発や活動の強化内容をもう少し具体化しておいても良かった

<委員>

人材マネジメントの強化について、取組の実施回数を示す形となっているが、職員のモチベーション調査の結果や取組の効果が数値として見える形で示せると良かった。

<委員>

モチベーション調査結果を踏まえた改善策とはどういったものか。

<事務局>

職員アンケートと行政サーベイ（現行組織に対する評価）を全職員に実施。結果を踏まえ改善策のアクションプランを作成した。

<委員>

メンタルヘルス管理の推進について、管理職研修の参加率が3年とも低い。管理職の理解が重要な要素となるので、年に1回は受けることとするなど、内容や実施方法等について検討してもらいたい。

4. 人口減少・アフターコロナを見据えた行政サービスのあり方

<委員>

自治体 DX の取組について、八幡市や近隣市町の取組状況は。

<事務局>

電子決裁等、内部の手続きについては進んでおり、出先機関の職員が本庁に来る必要がなくなるなど、業務効率化は一定図れていると考えている。市民サービスについては、第8次行財政改革の計画期間とは外れるが、現在窓口時間の短縮と併せてオンライン手続の取組を進めている。他市の状況についてはまちまちだが、内部決裁の電子化については、本市は進んでいる方ではないか。

<委員>

懇談会の意見として、自治体 DX については順調に導入・運用がすすめられており、アフターコロナや人口減少など、外部環境変化を踏まえた対応について、一定の進捗がみられた

ということで理解したい。

<委員>

スクラップ&ビルドの取組結果やそれに対する関係者の反応はどういったものか。

<事務局>

補助金の削減等、反発がある部分もあるが、ただつぶすのではなく、より良い形に作り替えていくという視点で取組を進めている。

4. その他

今後のスケジュールについて説明。「行財政改革検討懇談会による評価」について、事務局案の確認を会長に一任することで一致。

5. 閉会

以上